

音楽部会

目指す児童・生徒像

- 様々な音楽に興味・関心をもち、豊かに表現できる。
- 音楽の基礎・基本を身に付け、それを活用できる。

取り組み

【1学期】

- 小中の授業の一部を小中の教員がTTで進めました。また、小小でもTTの授業交流をしました。(年間)
- 中学校の教育実習生と管楽器を使った授業を小学校で実施しました。

【2学期】

- 3校の教員が協働して、学習案内を作成しました。
- 9月の地域主催行事「さざんかフェスタ」では3校の合唱団が合同で「ふるさと」を合唱しました。
- 「和泉合唱コンクール」で新泉小と和泉小の音楽科教員も審査に加わりました。また新泉小音楽科がTTを行っている和泉中1年生の伴奏をしました。

- 「杉並合唱フェスティバル」で新泉小と和泉中の合同合唱団で演奏をしました。

【3学期】

- 卒業式に向けて3校の音楽専科教員で教材研究や、指導上の協働を行いました。



合唱部活動体験

成果と課題

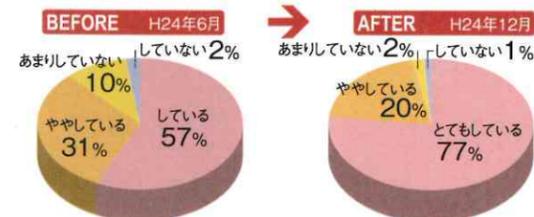
成果

- 今年で3年目となる小中でのTT授業の他、今年度は新泉小音楽専科と和泉小低学年担任との協働授業により、児童理解を深めるとともに、専門性を生かした授業を展開することができました。
- 和泉小6年生の音楽科指導に中学校音楽科教員が入り、中学校につながる変声期の男子等への発声指導を行い安心して歌える環境づくりができました。TTで行うことでパート練習がスムーズに行われ、音程をしっかりと取り中学校の混声合唱につながる指導を行うことができました。
- 新泉小と和泉中の合唱団交流で、小学校合唱団も中学生の男子パートが加わる混声合唱の体験ができました。小学生が懸命に歌う姿と中学生の部活動として日々トレーニングしている歌に対する姿勢は、双方の合唱団にとって大きく影響を受け合うすばらしい機会となっています。
- 中学校合唱コンクールでの教員間の協働は、一貫校としての見通しをもつために大変有効でした。

課題

- 読譜力、音楽・基礎の定着については、さらに小中それぞれの授業で工夫を重ね授業に生かしていきたい。また、教員間での協働を通して研究を重ねていきたい。

アンケート項目 豊かに音楽を表現するための工夫をしていますか？ (対象:小6年、中1 n=121名)



体育部会

目指す児童・生徒像

- 進んで運動に取り組むことができる。
- 自分の課題に応じたためあてをもって運動を選び取り組むことができる。
- 生涯にわたり健康の保持・増進を目指し運動を豊かに実践する。



フラッグフットボール

取り組み

学習案内の作成

- 学習案内を作成する中で、新泉・和泉地区の一つの特色(芝生を活かした単元)として、タグラグビー・フラッグフットボールを年間指導計画に配置しました。

中学校体育科教員との連携

- 中学校の体育科教員の専門性を活かすために、新泉小(2年)・和泉小(6年)の水泳授業にTTとして入り、技能面での指導を強化しました。

めあて学習の充実

- 自分の課題を知り、その課題を解決するための練習や活動を考えながら運動する力を付けて欲しいので毎回の授業で、声かけをすることにしました。また、学習カード・学習資料を充実させて授業を展開しました。



中学校体育科教員との連携

昨年度(1年時)との比較 新泉小2年生(35名)

	23年度	24年度
25m泳ぐことができる	5	14
水中で眼をあけられない	2	0
泳ぐことができる	28	21

成果と課題

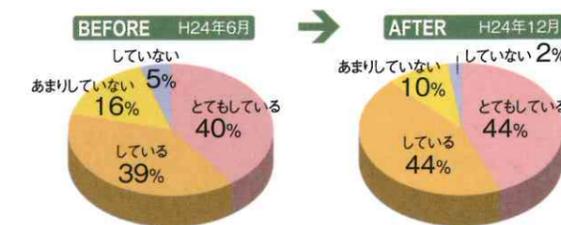
成果

- 「めあて」を意識して運動に取り組むように継続して声かけをし、さらに自分たちの課題やそれにあった練習方法を見つけるための資料を充実させたことで、工夫しながら練習にとりくむ児童の割合が増えました。
- 1年生の時に比べ、長い距離を泳げるようになった子が大幅に増えました。水の中で遊ぶという活動を通して、2年生のほぼ全員の児童が泳げるようになりました。

課題

- 授業の交流が水泳系の単元のみになってしまい、年間を通しての活動というところまでは広げられなかった。次年度は、こうした取り組みを通年でやっていくことが課題である。

アンケート項目 ボールゲームでチームが強くなるために練習を工夫していますか。(対象:小6年 n=103名)



キャッチができるようになるために、ランバスの練習ではなく、遠くから投げてキャッチする練習を中心にした。

最初はみんなの意見がまとまらず、点を入れられなかったが、練習を重ねるにつれて、上手になってよかった。

図画工作・美術 技術・家庭科部会

目指す児童・生徒像

- 主体的に課題に取り組むことができる。
- 色や形のよさを実感し、それらを活用することができる。
- 造形活動の中で、自分の考えや思いを表現できる。

取り組み

- 和泉フェスタ・新泉作品展で児童・生徒の作品を通じた交流を実施しました。
- 図画工作・美術で定期的な教員の交流を実施しました。
- 和泉中学校交流期間で授業体験を実施しました。



新泉作品展での子どもガイド

成果と課題

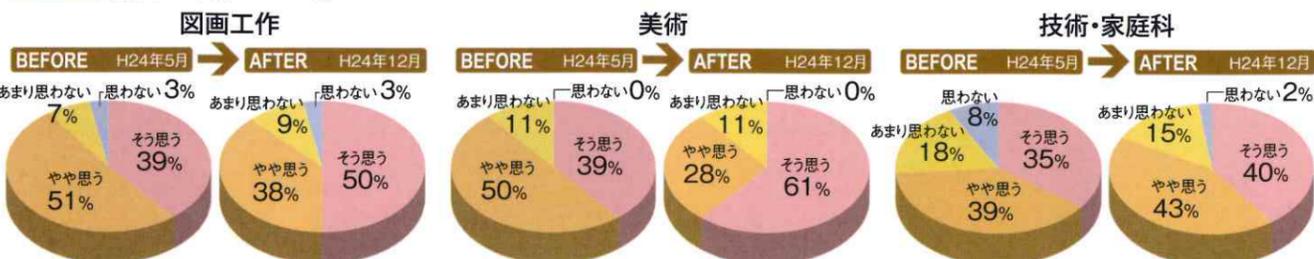
成果

- 和泉フェスタ・新泉作品展での鑑賞活動(子どもガイド)では、作品を通じたコミュニケーションがたくさん生まれました。また、自分が作品に込めた思いを再確認する機会となりました。
- 中学校での授業体験では、新泉小での中学校教員とのTTの効果もあり、多くの児童が美術の授業を選択する等、興味・関心が高まりました。
- 和泉小6年家庭科の調理実習で和泉中家庭科室を使用しました。流しとガスコンロが一体型になったテーブルで、児童が段取り良く実習をすることができました。

課題

- 技術科のアンケート結果から実生活との関連を意識する場面が少ないことがわかった。自分の生活に生かしながら学習できるよう、指導の工夫が必要である。
- 図工美術科のアンケート結果から「作品を通して自分の思いや考えを生かす」という項目では、小中ともに消極的な答えが多い。基礎的な技能の定着を図るとともに、幅広い経験を重ね、表現方法を選択・決定できる力を伸ばしていく。

アンケート項目 よりよい作品をつくるための工夫をしていますか。(対象:小5・6年、中3 n=220名)



英語部会

目指す児童・生徒像

- コミュニケーションを目的として英語を運用することができる基礎力をもつ。
- 外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化を理解することができる。

取り組み

- 中学校英語科教員が、新泉小の英語活動でJETとしてTTで授業を行いました。
- 中学校英語科教員が、新泉小学校の英語集会に参加しました。
- 小学校英語活動を活かして英語日直やAll Englishの授業を中学校1、2年で実施しました。
- 和泉中学校の小学生体験授業においてALTの授業体験を行いました。



新泉小英語集会



小学生体験授業

成果と課題

成果

- 小学校6年間の英語活動の積み重ねが、中学校の英語に対しての意欲や自信となっています。
- 学習案内やカリキュラムの作成によって、小学校から中学校への9年間の見通しをもつことができました。

課題

- 全教員が9年間の見通しをもって授業づくりを行えるように、お互いの授業を見合い、小中の授業交流の機会を作っていく必要がある。
- 小学校で英語に慣れ親しんだ児童たちが中学校に入学し、英語を話したり聞いたりすることだけではなく、英語を読んだり書いたりすることに意欲をもって取り組めるように授業を工夫する必要がある。

アンケート項目 英語ができるようになりますか? アンケート項目 英語でコミュニケーションをとることは好きですか?



アンケート項目 将来役立つと思いますか?



(対象:平成24年11月 中学1年生で実施 n=21名)

第6回 新泉小・和泉小・和泉中保護者への意識調査結果

保護者の皆様に向けて、今年度も6月の意識調査に引き続き12月に意識調査を行いました。自由意見欄に貴重なご意見をいただきましたので、紙面の都合上、一部抜粋して掲載いたしました。ありがとうございました。

第6回アンケート 24年12月実施 n=219人

① 新泉・和泉地区の小中一貫教育の意義や内容について理解している。

全体の肯定率が79%から83%に増えました。小中一貫教育は、小学校・中学校間に存在する指導観や学力観などの違いを取り除き、小学校と中学校が協力や連携をすることで、9年間の一貫した質の高い授業、質の高い教育を目指しています。「杉並区教育ビジョン2012」でも、小中一貫教育は重点目標になっています。6・3制を維持しながら、様々な教育課題に対応していきます。

② 施設一体型小中一貫教育校に期待をもっている。

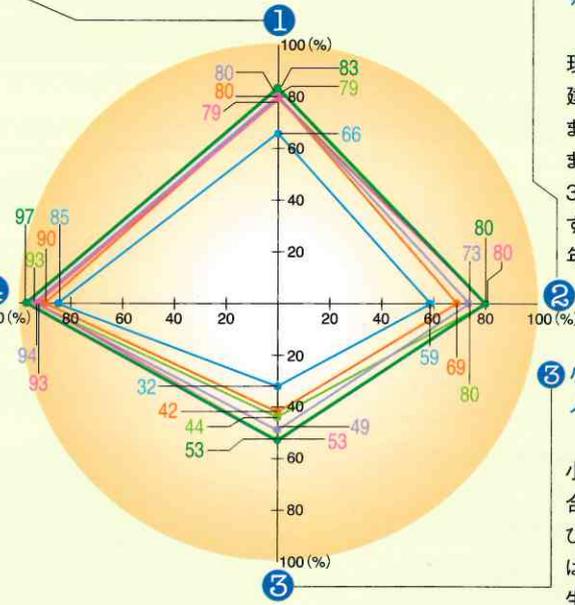
全体の肯定率が80%から80%と横ばいでした。現在の和泉中学校の校庭に新校舎(小学校棟)を建築し、既存の中学校も大幅な改修を行います。また、特別支援学級は小学部と中学部が設置されます。小学部は学年4クラス対応、中学部は学年3クラス対応です。校庭は、約3000m²程度芝生化する計画です。H25年6月から工事が始まり、H26年4月から和泉中は新泉小の敷地に移転します。

④ 小中一貫教育の情報は、学校公開や印刷物、ホームページを通して、ご家庭に届いている。

全体の肯定率が93%から97%に増えました。今後も各校の学校だよりやホームページ、ニュースレター、3校共通のホームページ等で情報をお伝えしていきます。また、設置協議会の情報は、教育委員会のホームページに掲載されていますのでご覧ください。

③ 小中一貫教育のよさ(学力向上・豊かな人間性・進路保障)が実感できている。

全体の肯定率が53%から53%と横ばいでした。小中一貫教育の最大のメリットは、小中の教員が学び合いによって、質の高い授業を提供し、子供たちが学びの素地をつくることができることです。学びの素地は、自分の夢を実現するための力となります。小学1年生の憧れを中学3年生の進路に繋げる。それが、小中一貫教育の進路保障です。



→ 2012年12月 ← 2012年6月 ← 2011年12月 ← 2011年6月 ← 2010年12月 ← 2010年6月

■ 4段階評価 4: そう思う 3: ややそう思う 2: あまりそう思わない 1: そう思わない ※ 評価できない、わからないときは「わからない」を選択

保護者のコメント

- 小中一貫教育は教育の場がオープンになり、小学生と中学生が関わることで思いやりの気持ちなどが生まれてくるのではと期待しています。
- 私立受験する方が多い中、高校からの受験でどれくらいの進学のレベルがあるのか心配です。
- 我が家は私立は考えていないので、和泉中の生徒数が増えていくことと、塾に行かせなくても済むようにサポートしてくださるとありがたいです。
- 様々な形で先生方と子供たちが影響し合って学ぶことができる小中一貫教育に期待している。しかしながら、三校で共通した学校教育の理念や方針が示されることなく、不安な点も多い。
- 今後、具体的な事項を決めていく中で、保護者の協議会への積極的な傍聴を呼び掛けていくことも大切ではと思います。

- 子供たちは芝生でお弁当等で交流して、お互いの顔と名前を覚えはじめ新校開校を楽しみにしています。先生方の努力もとてもよく見えていると思います。
- 小学校の先生方と中学校の先生方がお互いに認め合って、きちんと情報の交換をして、子供たちにより良い学校環境を作ってほしいと強く思います。
- 小中一貫教育について書かれる内容は「普通級」に関してのみ・・・支援級や特別支援教育に関する記事やお知らせが少ないと思います。
- 施設ができると一貫教育のメリットを感じることができるのではないかと考えています。地元には児童・生徒が多くなることを期待しています。
- 和泉中進学が少なすぎます。今、和泉中は最高の教師と環境であると感じています。小学校から強く進学を勧めていただきたいです。

お知らせ

■ 小中一貫教育報告会の開催について

日時：2月13日(水)午後2時から3時45分
会場：和泉中学校視聴覚室

内容：研究の報告

講師：出町桜一郎先生

済美教育センター 統括指導主事



新泉・和泉
小中一貫教育

杉並区立 和泉中学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-14
tel.03-3322-7671 fax.03-3322-3574
url.http://www.suginami-school.ed.jp/izumichu/

杉並区立 新泉小学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉1-44-26
tel.03-3322-4251 fax.03-3322-2761
url.http://www.suginami-school.ed.jp/shinsenshou/

杉並区立 和泉小学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-21
tel.03-3322-4254 fax.03-3322-8336
url.http://izel.sakura.ne.jp/izumi/

小中一貫教育ニュースホームページ

<http://www.suginami-school.ed.jp/shinsen-izumi/>